

英語の音の強弱に関する説明

分節的特徴と超分節的特徴

英語の音的特徴は、分節的特徴(母音、子音)と超分節的特徴(メロディ的要素、英語の場合はアクセント、イントネーション、リズム)に大きくわけることができます。前者はローカルな特徴、後者はよりマクロな特徴、とかんがえて OK です。

Wikipedia の「アクセント」のページにある冒頭の説明を確認してみると、以下のように書いてあります:

アクセント(日: 揚音(ようおん)・昂音[1][2], 英: accents/accentuation)とは、音声学において単語または単語結合ごとに社会的な慣習として決まっている音の相対的な強弱や高低の配置のことである[3]。音の強弱による強弱アクセント(強勢アクセント) (en:stress)、音の高低による高低アクセント、長短アクセントに分けられる。

なお、文レベルの感情表現に関わる高低はイントネーションという。アクセントは音素の一つであり、単語ごとに決まっていいて意味との結びつきが必然性を持たないのに対し、イントネーションは文単位であり、アクセントの上にかぶさって疑問や肯定などの意味を付け加える。

Wikipedia の説明にあるように、アクセントの位置は社会的慣習として決まっているため、「正解」があり、どこにアクセントが乗るかは辞書にかいてあります。対して、イントネーションには正解はなく、話者の感情次第でおおきく変化します。

英語の音の強弱

英語の場合、音量、尺(母音の長さ)、ピッチ(音の高低)の 3 つの要素が重畳して、音の強弱、と言われます。また、これらの程度はすべて相対的なものであり、弱いところと比較して強いという意味です。地声が高い人も低い人もアクセントを問題なく出せることからわかるように、強弱は絶対値ではありません。

また、ピッチアクセントにもさらに種類があります。具体的には、ピッチアクセントを出す音節で、どのように高さを出すか、という違いがあります。この違いは、á(高)や â(下降)などの補助記号で表現されます。英語の場合、高ではなく下降のアクセントになります。

英語のピッチアクセントを出すコツ

1. アクセントがのる音節を発音するさいに、その直前の音よりも「相対的に」高い音で発音する(具体的にどの程度の高低差を出すかは任意。この高低差が激しいほど感情豊かな表現になる)
2. アクセントが乗る音節の発音を開始したら、その音の高さを「徐々に」低くしていく。アクセントが乗る音節の発音が終了するときには、もとの高さ、つまり、直前の音の高さに戻っている。

というやり方を意識して練習することをおすすめします。1 と 2 でいわゆる「ひと山」を形成します。この山がリズム

カルにやってくるのが英語の特徴です。※日本語の場合、五七五七七に代表されるような拍(モーラ)というリズムの取り方になります。これは英語とはまったく違うので、注意してください。